

日本の中国語教育に見られるいくつかの 不自然な中国語について（その一）

—検定試験を中心に—

温 琳

キーワード

日本 中国語の表現 不自然 検定試験 問題提起

0. 内容提要

语言习得过程是一个由语言输入到输出的过程，输入是手段，输出是目的。温晓虹（2012）指出：输入要有两个特点，才有可能对习得有效益。一个特点是：输入是能够被学习者理解的；另一个特点是：对学习来说，输入的信息中有一些特征引起了他们的觉察与注意，使他们能够在以后的语言接触和信息处理中继续观察，使用，并对自己不断建立的语法体系去粗取精，去伪存真，逐渐接近目的语。笔者认同温晓虹（2012）的观点，但是同时更想指出的是输入应当是准确，自然的。

在第二语言教学课堂上，相信很多教师都做过“传话”的游戏。教师把一个正确的句子告诉一个同学，然后从这个同学开始依次传下去。这个游戏最终的结果往往是最后的句子与最初的句子“驴头不对马嘴”。分析其原因，其实非常简单。就是参与者每人出一点小错误，最后句子就完全走样了。这个例子给我们什么启示？其实还是正确输入的重要性。

“汉语检定”考试可称得上是日本最为权威的汉语水平考试之一。由于毕业或者就业需要等等，愈来愈多的汉语学习者参加“汉语检定”考试。很多学习者用历年试题反复操练，甚至还记忆，背诵一些经典句。针对这一现象，笔者认为“汉语检定”考试的试题即便不是课本，但实际上也在发挥着教材作为输入的作用。那么，它应当是准确、自然的。本文就第70次，71次“汉语检定”考试中几个不自然的中文句子谈谈笔者的看法。若能促使有关方面引起注意，则为幸中之幸。

目次

1. はじめに
2. 問題表現
3. アンケート調査及び結果
4. おわりに

1. はじめに

「中国語検定」は、日本で最も権威のある中国語検定試験の一つである。本学でも毎年、多くの学生が、キャリアアップや腕試しのために受験している。中国語検定を受験する学生の中には、過去問題を繰り返し解く学生、過去問題に出題された問題文を丸暗記する者も少なくない。日本人学生の学習は、詰め込み式の学習に慣れており、暗記と内省を通して、ゆっくりとだが着実に身に着けていくものである¹。こういった日本人学生の学習スタイルと最初の記述を合わせて考えると、中国語検定の過去問題は教材として、インプットの役割を果たしていると言える。中国語を第二言語として学ぶならば、単語や慣用句、各種構文を大量にインプットしなければならない²。また、教員は学習者に正確な言語インプットを大量に提供し、学習者の中にある普遍文法を活性化させなければならない³。筆者は、テキストや映像、検定試験、学校の試験問題等すべてが言語インプットだと考えている。先に示した、温（2012）の主張と合わせて考えると、これらの言語インプットも正確なものでなければなら

¹ “有人把日本学生的学习风格称为“吸纳积累式”。日本留学生习惯于接受灌输，静思默记，内省自悟，慢慢吸纳，稳扎稳打。”（王 2008：276）

² “第二语言的学习依靠大量的记忆。有效记忆的策略是第二语言学习成功的关键性策略，汉语学习尤为如此。学习汉语要大量记忆单词，习语及各种句式。”（徐 2000）

³ “语言习得过程是一个由语言输入到输出的过程，输入是手段，输出是目的。“在第二语言教学中，教师需要向学习者提供大量正确的语言输入，以激活普遍语法。”（温 2012：52）

いはずである。だが、教育の現場では、誤った言語インプットを目にすることもある。

次の2つの文を見てみたい。

- (1) 大连给我留下最深的印象是花，大街上开着很多花，漂亮极了。
(第70回 3級 リスニング② 内容理解 (6)～(10))
- (2) 我上大学的时候，几乎所有的杂志都是在那家店买的，现在没有了，我有点儿感到可惜。(第71回 3級 リスニング② 内容理解 (6)～(10))

これらの文は、中国語検定の過去問題から、筆者が発見したものである。これらの文を目にした際、筆者は驚きとともに、ある種の危機感を抱いた。なぜなら、筆者には明らかに不自然なセンテンスだと思えたからである。筆者は中国語のネイティブではあるが、一個人の語感のみで、これらの文の正誤を判断するのは危険である。

そこで、筆者はコーパスを用いた用例調査と、アンケートを用いた規範意識調査を実施した。本稿では、これらの調査で得られた結果にもとづいて、(1)や(2)のような不自然な文について、議論を展開していく。その際、次のようなプロセスを用いて検証を行う。まず、筆者が検定試験において発見した、不自然な中国語の文を提示する。次に、中国北京大学中国言語学研究センターの、現代中国語コーパス⁴を用いて、筆者が不自然だと考える表現と、規範的だと考える表現の用例について、比較・検証する。そして、中国語母語話者を対象に実施した、アンケート調査及びその結果について考察する。最後に、これらの検証結果をもとに、筆者の考えが正しいことを立証したい。

⁴ 北京语言大学语言学研究中心 CCL 语料库 http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

2. 問題表現

本章では、筆者が中国語検定の過去問題で発見した、二つの中国語としては不自然な文について分析する。なお、コーパスから引用した用例は、必要と思われる部分を筆者が日本語訳した。また、筆者が不自然だと判断した文についても、適切だと思われる日本語に訳した。

2.1 「留下最深的印象是……」と「留下印象最深的是……」

(1) は第 70 回中国語検定、3 級のリスニング問題 2 で用いられたセンテンスである。ここでは、この文について考える。

- (1) 大连给我留下最深的印象是花，大街上开着很多花，漂亮极了。
(大連で一番印象に残ったのは花だ。大通りにたくさんの花が咲いており、とてもきれいだった。)(『中検 3 級問題集 2011 年版』, 中検研究会編)

筆者は、この文を目にしたとき、不自然さを感じたため、一人のネイティブとしてその理由を考えてみた。その結果、中国語の場合、“留下最深的印象是……”より、“留下印象最深的是……”を多く用いるからではないかという点に思い至った。

それを立証するため、中国北京大学中国言語学研究センターの現代中国語コーパスを用いて、用例を検索した。その結果は表 1 に示した通りである。

表現	用例数	割合 (%)
留下最深的印象是……	2	17%
留下印象最深的是……	10	83%
合計	12	100%

表 1

表 1 を見れば分かるように、ネイティブ、つまり中国人による使用例

では、“留下印象最深的是……”の使用が圧倒的に多いことが分かる。参考のため、実際に抽出された用例を以下に示す。まず、“留下最深的印象是……”の用例である。抽出された用例は次の2つである。

- ① ? 罗马尼亚前副总理尼古列斯库－米济尔于 1959 年参加中国国庆十周年活动时第一次见到邓小平，并进行了亲切交谈，后来又几次见过。他说：“邓小平给我留下最深的印象是思想十分敏捷”。（新华社 2004 年新闻稿，作者：不详）
（「鄧小平が私に残す最も深い印象は頭の回転が早いことだ」と彼は言った）
- ② ? 他（毛主席）站在窑洞前的台阶上，不是板着脸孔演说，而是像聊天一样谈笑风生。大院子里，一时十分安静，一时又爆发出愉快的笑声和热烈的掌声。给我留下最深的印象是：主席劝导大家不能只待在“小鲁艺”，而要到“大鲁艺”去。（桥儿沟忆旧，作者：马烽）
（私に残す最も深い印象は、主席が皆さんに小さい魯迅芸術学院だけでなく、大きい魯迅芸術学院に行くべきだとアドバイスしたことだ。）

次に、“留下印象最深的是……”の用例である。10 例中の 4 例を以下に示す。

- ③ 我在突尼斯工作期间，曾多次采访阿拉法特，其中给我留下印象最深的是对他进行的一次专访。（新华社 2004 年新闻稿，作者：不详）
（私はチュニジアで仕事している間、数回にわたりアラファト氏にインタビューした。その中で、最も印象深かったのは彼を単独インタビューした時のことだ。）
- ④ 在到过的大小城市中，给我留下印象最深的是花园城市班加罗尔。（人民日报，1994 年第 3 季度，作者：不详）

(訪問したいろいろな都市の中で、もっとも印象深かったのは花園の街バンガロールだ。)

- ⑤ 读小学，在我脑海中留下印象最深的是《最后一课》。那时国难当头，教师讲完这篇课文后，同学们难过得连中午饭也没有心思吃下去。(人民日报，1995年1月份，作者：不详)

(小学校の頃、もっとも印象深かった授業は「最後の授業」だ。)

- ⑥ 罗总理说，此次亚洲3国之行给他留下印象最深的是，中国正在经历深刻变化，其中最明显的是人们思想观念上的变化。(人民日报，1995年7月份，作者：不详)

(ルーマニア総理は次のように述べた。「今回アジア3カ国を歴訪する中で、もっとも印象深かったのは、中国が大きな変化を経験していることだ。その中で、最も顕著なのは人々の思想の変化だった。」)

用例を観察するとわかるように，“留下最深的印象是……”と，“留下印象最深的是……”の用法は酷似している。用法に違いがないのであれば、わざわざ、不自然な“留下最深的印象是……”を使用する必要性はどこにあるのだろうか。

ここまで，“留下最深的印象是……”と“留下印象最深的是……”について考察した。両者の用例を見ればわかるように、問題となっている部分は、“是”の主語として現れている。だが、両者から“是”を除いた，“留下最深的印象……”と“留下印象最深的……”がいつも主語として現れるとは限らない。単独で用いられる場合や修飾語として現れることはないのだろうか。また、その場合も、コーパスにおける出現率は変わらないのだろうか。そこで，“留下最深的印象是……”と“留下印象最深的是……”から、“是”を除いて、再度コーパスで検索してみることにした。その結果は表2の通りである。

表現	用例数	割合 (%)
留下最深的印象	0	0 %
留下印象最深的	14	100%
合計	14	100%

表 2

表 2 が示しているように、少なくとも今回調査したコーパスでは、単独の“留下最深的印象”という表現は現れなかった。これは、“留下最深的印象是……”という表現は不自然であるという、筆者の主張の裏付けにもなるのではないだろうか。

ここで抽出された 14 例の、“留下印象最深的⁵⁾”という表現が、どのように使われているのかを見てみたい。詳細は表 3 の通りである。

	主語	連体修飾語	計
留下印象最深的	10	4	14
割合 (%)	71%	29%	100%

表 3

表 3 が示しているように、“留下印象最深的”は主に主語として用いられ、時には連体修飾語としても用いられることが分かる。

用例を見てみよう。

- ⑦ 三场热身赛打完，给盖茨留下印象最深的中国球员是巴特尔，唐正东，易建联和朱芳雨。

(新华社 2004 年新闻稿，作者：不详)

(三回の練習試合の後、ゲイツにもっとも深い印象を残した中国選手は、巴特爾，唐正東，易建聯，そして朱芳雨だった。)

- ⑧ 来日本的第二天，外出散步时，常昊跟我讲，给他留下印象最深

⁵⁾ 正確には“给……留下印象最深的”である。

的一本书是乔丹的自传《我的天下》。(人民日报, 1996年10月份, 作者: 不详)

(日本滞在の二日目, 散歩のため外に出た際, 常昊が私に, 「自分にもっとも深い印象を残したのはジョーダンの自伝『マイケル・ジョーダン物語』だ」と言った。)

⑦, ⑧は, “留下印象最深刻的” が連体修飾語となる用例である。用例⑦では“中国球员”の, 用例⑧では“一本书”の連体修飾語となっている。次に主語となる用例をいくつか見てみよう。

⑨ 在我们短暂的采访过程中, 留下印象最深刻的, 是张家港市领导“言必信, 行必果”的雷厉风行作风。(人民日报, 1995年12月份, 作者: 不详)

(短い取材の中で, もっとも深い印象を残したのは, 張家港市の市長たちの「言った以上は必ず実行し, 行う以上は断固としてやる」という厳格かつ迅速な仕事ぶりだった。)

⑩ 给我留下印象最深的就是他的爱心。(人民日报, 1994年第3季度, 作者: 不详)

(私にもっとも深い印象を残したのは彼の思いやりだった。)

⑪ 我到过许多国家, 有不少领导人是我的朋友, 但给我留下印象最深的还是中国。(人民日报, 1995年12月份, 作者: 不详)

(私はたくさんの国に行ったことがあり, 首脳の友人も大勢いるが, もっとも印象深いのはやはり中国だ。)

⑫ 而给记者留下印象最深刻的, 则是每个商品标价签下面的“小尾巴”——优惠价, 因商品的类别不同, 优惠的幅度大约为正常价的八到九五折之间。(《报刊精选》, 1994年10, 作者: 不详)

(記者にもっとも深い印象を残したのは, 商品の値札の下の方にある「尻尾」, つまり割引価格だ。商品の種類によって違うが, 値下げ幅は大体通常料金の5~20%ぐらいだった。)

⑬ 演出情景, 都深深地烙刻在我的脑海里, 令我终生不会忘怀, 而

给我留下印象最深刻的，要数这次在藏北海拔 4500 米的高原城那曲的演出。（人民日报，1995 年 10 月份，作者：不详）

（公演の様子のすべてが、私の脳裏に焼き付いている。一生忘れることはないだろう。もっとも印象深いのは、チベット北部にある、海拔 4500 メートルの高原で行われた公演だ。）

- ⑭ 给我留下印象最深刻的有两条：一是中缅两国人民的友谊有着深厚的基础，在新的形势下，又有了发展；二是缅甸在经济建设方面有着广阔的前景。（人民日报，1995 年 12 月份，作者：不详）

（もっとも深い印象を残してくれたのは二つのことだ。一つ目は中国，ミャンマー両国の市民の友情に厚い基盤があり，新しい情勢のもと，更なる発展を遂げたこと。二つ目は経済建設の面では，ミャンマーには明るい将来性があること。）

“留下印象最深刻的”は、用例⑨では“是”の主語，用例⑩では“就是”の主語，用例⑪では“还是”の主語，用例⑫では“则是”の主語，用例⑬では“要数”の主語，用例⑭では“有”の主語となっている。

“留下印象最深刻的”が主語となる場合についても，表を作成した（表 4）。

“留下印象最深刻的”が主語の場合

	用例数	割合 (%)
“就是”の主語	3	30%
“是”の主語	2	20%
“还是”の主語	1	10%
“则是”の主語	1	10%
“要数”の主語	2	20%
“有”の主語	1	10%
合計	10	100%

表 4

表4が示しているように、“留下印象最深刻的”は主語として用いられる際、“就是”，“是”，“还是”，“则是”，“要数”，“有”の主語になることができる。もし，“就是”，“是”，“还是”，“则是”を全て“是”及びその変形とみなすと，“留下印象最深刻的”が主語になる場合、実に70%の割合で“是”及びその変形の主語になることが分かる。“留下印象最深刻的”を主語として使用する際、一つの指針と考えて良いだろう。

2.2 「有点儿感到……」と「感到有点儿……」

ここからは、別の文について検討してみたい。(2)は第71回中国語検定、3級のリスニング問題②で用いられた文であり、(1)と同じく、筆者が不自然だと感じた文である。

(2) 我上大学的时候，几乎所有的杂志都是在那家店买的，现在没有了，我有点儿感到可惜。

(私は大学に通っていた時、ほとんどすべての雑誌はあの店で買っていたのだが、今はそれがなくなっており、少し残念に思った。)(『中検3級問題集2011年版』、中検研究会編)

筆者は、(2)で使用されている“有点儿感到可惜”という表現に、違和感を抱いた。通常は、“感到有点儿可惜”となるべきである。現に、筆者はこれまで、学生が“有点儿感到可惜”，“有点儿感到难过”，“有点儿感到不好意思”のような文を作って来る度に、直してきた。そこで、中国語母語話者はどのように使用しているのかを、同じく中国北京大学中国言語学研究センターの、現代中国語コーパスを用いて調査してみた。

まず、“有点儿感到……”と“感到有点儿……”をコーパスで検索した所、その用例数と比率は表5のようになった。

表現	用例数	割合 (%)
有点儿感到……	2	4%
感到有点儿……	47	96%
合計	49	100%

表 5

表5が示しているように、中国語母語話者の使用例では、“感到有点儿……”が圧倒的に多いことが分かる。つまり、現代中国語において、“有点儿感到……”はほとんど使われていないということである。筆者が、“有点儿感到……”に不自然さを感じた理由の一つは、この点を無意識に考えたことにあるのかもしれない。

参考のため、実際に抽出された用例を以下に示す。

まず、“感到有点儿……”の用例である。抽出された用例は次の2つである。

- ① ? 这话他从来没有想到过, 也没有听别人说过, 使他有点儿感到奇怪。(《李自成》, 作者: 姚雪垠)
(この話は、彼は一度も考えたことがなく、人から聞いたこともないため、彼に違和感を少し抱かせた。)
- ② ? 她的神气很古怪, 有点儿感到好笑, 可是一点儿也不傲慢, 这使她比任何时候都更为动人。(《天才》, 作者: 不详)
(彼女の表情はとてもおかしく、少し可笑しさを感じたが、傲慢さは全くなかった。この表情は彼女をどんなときよりも人の心を揺さぶる存在にさせた。)

次に、“感到有点儿……”の用例である。47例中の10例を以下に示す。

- ③ 蒋寒感到有点儿意外: “全体?” (《冬至》, 作者: 不详)
(「これで全員?’ 蒋寒は少し意外に感じた。)

- ④ 同时，江菊霞一个劲认真地盯牢他，他也感到有点儿腻味。（《上海的早晨》，作者：周而复）
（同時に、江菊霞がひたすら彼を監視していたから、彼は少しうんざりした。）
- ⑤ 安琪拉对有些店铺的外表感到有点儿讨厌，不过有些却很干净。（《天才》，作者：不详）
（アンジェラは一部の店の外観に少し嫌悪感を覚えたが、店によってはきれいなものもある。）
- ⑥ 她望着自己这间卧房，暗幽幽的，窗外暮霭茫茫，感到有点儿孤寂。（《上海的早晨》，作者：周而复）
（彼女が自分の寝室を眺めると、そこはうす暗く、窓の外には夕もやが広がっていて、少し寂しさを感じた。）
- ⑦ 毕加索非常爱母亲，但她又矮又胖的家庭妇女形象又让他感到有点儿难堪。（《还毕加索以真面目》，作者：芦龙军）
（ピカソは母親を非常に愛していたが、母親の（背が）低くてふっくらとしている、主婦然とした、外見はピカソに少し恥ぢかしさを感じさせた。）
- ⑧ 两位日本少女不懂汉语，黄伯平也不懂日语，一时间双方都感到有点儿局促不安。（《读者》，作者：不详）
（日本から来た少女は2人とも中国語がわからず、黄伯平も日本語がわからない。そのため、暫くの間、互いに少し居心地の悪さを感じた。）
- ⑨ 那一天，戴尔太太正感到有点儿闷气。打牌间里正在打桥牌，一群太太和小姐赌得非常紧张。（《天才》，作者：不详）
（その日、デル夫人は少しむかむかしていた。トランプルームではブリッジが行われていて、何人かの奥さんとお嬢さんはギャンブルに熱くなっていた。）
- ⑩ 不过，在我进行必要的铺垫和交代时，您开始会感到有点儿沉闷，但希望您不要打断我的讲述。（《高山下的花环》，作者：李存葆）
（しかし、私が必要な伏線を張る時、少し重苦しさをお感じにな

るかもしれませんが、私の話を中断させないでください。)

- ⑪ 尤金自己感到有点儿畏缩。他走进去的是一片冷酷的，战斗性的气氛。(《天才》，作者：不详)

(ユージーンは少し躊躇いを感じた。自分が足を踏み入れたのは冷酷かつ戦闘的なムードだ。)

- ⑫ 不管是什么赞扬，他听着都感到有点儿飘飘然。(《罪与罚》，作者：不详)

(どのような称賛の言葉でも、彼は少し天に昇った気持ちになる。)

用例①を見てみよう。“有点儿感到……”は“使……”という使役構文の一部として用いられていることがわかる。このことから、使役構文の一部であるため、“有点儿感到……”が使用されたのではないかという仮説が立てられるかもしれない。しかし、この仮説の普遍性はどうか。用例⑦を見てみよう。⑦は“感到有点儿……”を使用した用例だが、“让……”という使役構文の一部として用いられている。つまり、用例①と用例⑦とでは、“使”と“让”の違いこそあれ、同じく使役構文の一部として使用されていることになる。したがって、使役構文の一部だからといって、わざわざ不自然さの残る“有点儿感到……”を用いる必要はないことが分かる。

次に用例②及び⑤，⑨，⑪に注目してもらいたい。この四つの用例は、同じ文学作品にある用例であるにもかかわらず、使用された表現が異なっている(表6)。

《天才》における“有点儿感到……”及び“感到有点儿……”

表現	用例数	割合(%)
有点儿感到……	1	25%
感到有点儿……	3	75%
合計	4	100%

表6

表6が示しているように、同じ作品においても、“感到有点儿……”の方がより多く使用されていることが分かる。したがって、著者（あるいは翻訳者）の些細な気まぐれであるように思える。規範的な表現はあくまで“感到有点儿……”だという、筆者の直観が裏付けられたとも言える。

しかし、“有点儿感到……”に関しても、“感到有点儿……”に関しても、用例の数は決して多くない。なので、少し表現を変えて、検証を続けたい。周知の通り、“有点儿”は“有点”のくだけた形である。“有点儿感到……”と“感到有点儿……”の分析では、上記のような結論が出たが、“有点感到……”と“感到有点……”でも同様のことが言えるのだろうか。このことを検証するため、“有点感到……”と“感到有点……”をコーパスで検索したところ、次のような結果を得ることができた（表7）。

表現	用例数	割合（％）
有点感到……	14	4%
感到有点……	344	96%
合計	358	100%

表7

表7が示しているように、“有点感到……”と“感到有点……”では、“感到有点……”の使用例が圧倒的に多い。“有点感到……”の使用例は全使用例の4%に過ぎなかった。つまり、やはりネイティブである中国人は、“有点感到……”より“感到有点……”を多用する傾向にあることが分かる。

参考のため、実際に抽出された用例を以下に示す。まず、“有点感到……”の用例である。14の用例のうち5例を並べる。

- ⑬ ? 这使人多少有点感到诧异。(《作家文摘》1995, 作者: 不详)
 (これは人に多かれ少なかれ少し不思議さを感じる。)

- ⑭ ? 江菊霞有点感到意外，徐义德今天对她为啥这么冷淡？（《上海的早晨》，作者：周而复）
（江菊霞が少し意外さを感じた。徐義徳は今日どうしてこんなに冷たいのだろう。）
- ⑮ ? 即使在那个时候，他对儿子的这种独立个性已经有点感到震惊了。（《读书》，作者：不详）
（そんな時にでも、彼は息子の自立の性格に少し驚愕した。）
- ⑯ ? 帕恩不禁有点感到惊讶，因为光是这点不同，他就以为以前的老朋友变成一个跟自己漠不相关的人了。（《罗德岛战记》，作者：不详）
（バーンは驚きを禁じ得なかった。なぜなら、この違いだけで、彼は昔の友人が自分とはなんの関係もない他人になってしまったと思ったからだ。）
- ⑰ ? 当他们走进草地和水泥地上场院的灯照出的光圈时她回答说：“那当然，”自己听着声音有点感到不安。（《廊桥遗梦》，作者：不详）
（彼らが、野原とアスファルトの上にある作業場の明かりによって照らし出された光の輪に入った時、彼女は「もちろんよ」と答えた。だが、自分の声に少し不安を感じた。）

次に、“感到有点……”の用例である。344ある用例のうち5例を示す。

- ⑱ 走进伊秋家院子时，我感到有点惊讶。（《私人生活》，作者：陈染）
（伊秋家の庭に入った時、私は少し意外に感じた。）
- ⑲ 说了这句话，秦干事忽然感到有点诧异。（《告别花都》，作者：赵琪）
（このことを話してから、秦責任者は急に少し不思議に感じた。）
- ⑳ 第二天，她在家门口看到了这盆花。惊奇之余，她感到有点不安。（《读者》，作者：不详）

(翌日、彼女は家の玄関でこの鉢植えを見た。驚きのあまり、少し不安に感じた。)

- ②① 我为此感到有点震惊，因为坦白说，我对这个题目一直颇为自得。
(《猜想与反驳》，作者：不详)

(私はそれに少し驚愕した。実を言うと、私はずっとこのテーマに大きな自信を持っていたからだ。)

- ②② 马慕韩感到有点意外，刚才吃饭，徐义德神色自若，不像有事体的样子，慌忙问道：“出了啥事体？”(《上海的早晨》，作者：周而复)

(馬慕韓は少し意外だった。さっきご飯を食べた時、徐義徳が落ち着いていて、何かがあったように見えなかったからだ。慌てて訊ねた「何があったの?」)

用例を観察すると、“有点感到……”と“感到有点……”は、用例の数には差があったものの、用法は似ていることがわかる。“有点感到……”も“感到有点……”も、後ろに心理活動を表す形容詞が現れている。

ここで、表5と表7を見比べてみよう。表5は“有点儿感到……”と“感到有点儿……”，表7は“有点感到……”と“感到有点……”についてまとめた表である。表5において，“有点儿感到……”の割合が全体のわずか4%であるのに対して，“感到有点儿……”の割合は全体の96%を占めている。これと同様の現象が、表7でも起きている。表7において，“有点感到……”の割合が全体のわずか4%であるのに対して，“感到有点……”の割合は全体の96%を占めている。これらのデータから、中国語母語話者は、“有点儿感到……”より“感到有点儿……”，“有点感到……”より“感到有点……”を多用する傾向にあることが明らかになった。

ここまで，“有点儿感到……”と“感到有点儿……”について考察してきた。しかし，“感到”はやや硬い表現であるため、人によっては、同じ「感じる」という意味を表す，“觉得”の方が馴染み深いと考えるかもしれない。

そこで、“有点儿觉得”と“觉得有点儿”という二つの表現が、本稿の研究対象となるかどうか見てみよう。まず、“有点儿感到……”と“有点儿觉得”，そして“感到有点儿……”と“觉得有点儿”の間に、どのような違いがあるかについて考える必要がある。もし、両者（或いは、四者）の間に本質的な相違があるならば、本稿で議論するのは相応しくない。しかし、観察してみると、両者（或いは、四者）の間に構造上の違いはなかった。その違いは、使われている動詞が“感到”なのか、それとも“觉得”なのかだけである。加えて、中国語の“感到”と“觉得”は、使用される場面が多少異なるだけで、意味はほぼ同じである。したがって、“有点儿感到……”と“有点儿觉得”，そして“感到有点儿……”と“觉得有点儿”の間には本質的な違いはなく、“有点儿觉得”と“觉得有点儿”は、それぞれ“有点儿感到……”と“感到有点儿……”の同類、或いは延長だと考えることができる。そのため、本稿の研究対象としても相応しいと言える。

そこで、中国北京大学中国言語学研究センターの、現代中国語コーパスを用いて、用例を調査した。紙福の関係で、具体的な用例は省略するが、調査結果は表8に示した通りである。

	用例数	割合 (%)
有点儿觉得……	1	2%
觉得有点儿……	51	98%
合計	52	100%

表 8

表8が示しているように、“有点儿觉得”が全体の2%であるのに対して、“觉得有点儿”は全体の98%を占めている。つまり、中国語母語話者にとって、“有点儿觉得”より“觉得有点儿”を使用する傾向がある。この結果は、筆者のこれまでの議論が正しいことの傍証と言えるのではないだろうか。

3. アンケート調査⁶の結果

第2章では、コーパスを用いて“留下最深的印象是……”，“留下印象最深的是……”，“有点儿感到”，“感到有点儿”の使用傾向を検証することができた。しかし、コーパスは文字資料であるため、中国語母語話者の実際の使用意識と、乖離している可能性も考えられる。そこで、筆者は中国語母語話者を対象にアンケート調査を実施した。本来は使用意識、規範意識の両方を調査すべきだが、インフォーマントの負担を考慮し、アンケートは主に彼らの規範意識にフォーカスをあてるものにした。

筆者は2012年の夏、中国北部の都市（具体的には、北京、太原、大同）で、中国語ネイティブを対象に文(1)、(2)について、アンケート調査を行った。アンケート用紙は110部配布し、77部回収できた。そのうち、有効なものは76部である⁷。

文(1)に関するアンケート結果は、表9の通りである。

文(1)	正しいと思う	間違いではないが、不自然だと思う	間違いだと思う	計
	12	31	33	76
	16%	41%	43%	100%

表9

表9が示しているように、文(1)を正しいと判断した、インフォーマントはわずか16%しかいなかった。41%のインフォーマントが不自然だと判断し、43%のインフォーマントが文(1)に対して、完全に「no」を突きつけた。不自然だと判断したインフォーマントと、間違いだと明確に示したインフォーマントの合計は84%である。

文(2)に関するアンケート結果は表10の通りである。

⁶ アンケート調査の詳細については巻末の付録を参照されたい。

⁷ 無効になったアンケート用紙は一部である。無効にした理由は、回答者が5歳の児童だったためである。

文 (2)	正しいと思う	間違いではないが、 不自然だと思う	間違いだと思う	計
	11	16	49	76
	14%	21%	64%	100%

表 10

表 10 が示しているように、文 (2) を正しいと判断したインフォーマントは、わずか 11% しかいなかった。16% のインフォーマントが不自然だと判断し、64% のインフォーマントが間違いだと判断した。不自然だと判断したインフォーマントと間違いだと明確に示したインフォーマントの合計は 85% である。

4. おわりに

ここまで、筆者が中国語検定の過去問題で発見した二つの文、「大连给我留下最深的印象是花，大街上开着很多花，漂亮极了。」と「我上大学的时候，几乎所有的杂志都是在那家店买的，现在没有了，我有点儿感到可惜。」について、類似の表現も合わせて、分析してきた。その結果、いくつかの傾向が明らかになった。

まず、中国語母語話者は、“留下最深的印象是……” より “留下印象最深的是……” を多用することが分かった。具体的には、コーパスにおいて、“留下印象最深的是……” の用例の数は、“留下最深的印象是……” の 5 倍だった (表 1)。

また、単独の“留下最深的印象”という表現が存在しないのに対して、単独の“留下印象最深的是”という表現は存在することが分かった (表 2)。そして、この 2 つの表現にも“留下最深的印象是……”と“留下印象最深的是……”と同様の傾向が見られた。

なお、“留下印象最深的是”という表現については、主語になることが主だが、名詞の連体修飾語になるケースも見られた (表 3)。どのような名詞の連体修飾語として用いられるかについては、今回の調査では一定の法則性は見出せなかった。だが、70% の割合で“是”及びその変形の主

語になっていたことから、どのようなものの主語になるかについては、大体の方向性が判明したと言える（表4）。

次に、“有点儿感到……”及び“感到有点儿……”についてである。中国語母語話者は“有点儿感到……”より“感到有点儿……”を多用する傾向にあることが分かった（表5）。具体的には、コーパスにおいて“感到有点儿……”の用例の数は、“有点儿感到……”の23倍だった。

また、類似の表現，“有点感到……”，“感到有点……”についても同様の現象が見られた。“感到有点……”の用例数も“有点感到……”の24倍だった。つまり、中国語母語話者は“有点感到……”より“感到有点……”を多用する傾向にあるということだ。

最後に，“有点儿觉得……”，“感到有点儿……”の同類である“有点儿觉得”，“觉得有点儿”についてである。表8が示したように、中国語母語話者は，“有点儿觉得”より“觉得有点儿”を多用する傾向にあった。

このように、筆者が不自然さを感じた表現と、規範的な表現のコーパスにおける使用比率には大きな差が見られた。アンケート調査の結果と合わせて考えても、本稿で取り上げた文(1)，(2)は、規範的なものだと言うことはできない。この規範性の欠如こそ、筆者がこれらの文に不自然さを抱いた原因の一つだと考えられる。

本稿の分析により、文(1)「大连给我留下最深的印象是花，大街上开着很多花，漂亮极了。」と、文(2)「我上大学的时候，几乎所有的杂志都是在那家店买的，现在没有了，我有点儿感到可惜。」は、不自然な表現だということが判明した。温(2012)が述べているように、言語のインプットは、アウトプットを行う上で非常に重要な要素の一つである。中国語検定を始め、各種の検定試験がインプットの役割を果たしている以上、その内容は正確、かつ自然なものであるべきだと筆者は考える。教育現場においても、このようなことを意識して、教育を行っていくべきではないだろうか。

謝辞

この研究は麗澤大学の学術研究助成金により実施したものである。関係者各位に御礼を申し上げる。

参考文献

(中国語)

- 崔希亮, 2010, 对外汉语综合课课堂教学研究, 北京语言大学出版社
- 崔希亮, 2010, 对外汉语综合课优秀教案集, 北京语言大学出版社
- 国家汉办, 2002, 高等学校外国留学生汉语教学大纲(长期进修), 北京语言大学出版社
- 国家汉办, 2002, 高等学校外国留学生汉语教学大纲(短期强化), 北京语言大学出版社
- 韩明, 2011, 东南亚留学生汉语语法偏误研究, 广西师范大学出版社
- 侯仁锋, 2011, 试析日本汉语检定考试3级听力试题, 《中国语教育》第9号, 中国语教育学会
- 侯仁锋, 2012, 试析日本汉语检定考试3级笔试题, 《中国语教育》第10号, 中国语教育学会
- 侯仁锋, 2013, 试析日本汉语检定考试3级语音测试, 《中国语教育》第11号, 中国语教育学会
- 李柏令, 2010, 新思域下的汉语课堂—“以学生为中心”的对外汉语教学探索, 上海交通大学出版社
- 李晓琪, 2006, 对外汉语口语教学研究, 商务印书馆
- 陆剑明, 2005, 作为第二语言的汉语本体研究, 外语教学与研究出版社
- 潘文国, 2004, 对外汉语教学的跨文化视角, 华东师范大学出版社
- 齐沪杨, 2010, 现代汉语, 商务印书馆
- 钱玉莲, 赵晴菊, 2009, 留学生汉语输出学习策略研究, 世界图书出版公司
- 石锋, 施向东, 2009, 汉语教学谈, 南开大学出版社
- 孙丹, 张林, 2012, 留学生复句及语法习得偏误分析, 吉林大学出版社
- 孙德金, 2012, 欧美学生汉语语法习得与认知专题研究, 北京大学出版社
- 王顺洪, 2008, 日本人汉语学习研究, 北京大学出版社

- 王永德, 2004, 外国留学生习得汉语句子的比较研究, 安徽大学出版社
- 温晓虹, 2012, 汉语作为第二语言的习得与教学, 北京大学出版社
- 吴勇毅, 2012, 对外汉语教学法, 商务印书馆
- 徐子亮, 2000, 外国学生汉语学习策略的认知心理分析, 《第六届国际汉语教学讨论会论文集》, 北京语言大学出版社
- 杨德峰, 2008, 日本人学汉语常见语法错误释疑, 商务印书馆
- 杨金华, 2012, 外国人汉语语法习得难点研究, 上海大学出版社
- 王建勤, 2006, 汉语作为第二语言的学习者与汉语认知研究, 商务印书馆
- 张文元, 2011, 现代汉语教学指导与习题解答, 中华书局
- 周健, 2009, 汉语课堂教学技巧 325 例, 商务印书馆
- 周小兵, 2009, 对外汉语教学导论, 商务印书馆

(日本語)

- 胡玉華, 2009, 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』, 東方書店
- 胡玉華・宇野忍, 2004, 「大学生の中国語の学習方法に関する実態調査」, 國學院大學紀要『國學院雜誌』105 卷第 4 号
- 中野貞弘, 2002, 「高校中国語教育の現状と課題」, 『日本の中国語教育—その現状と課題・2002』, 好文出版
- 竹内理, 2003, 『より良い外国語学習法を求めて—外国語学習成功者の研究』, 松柏社
- 中検研究会, 2011, 『中検 2 級問題集 2011 年版』, 光生館
- 中検研究会, 2011, 『中検 3 級問題集 2011 年版』, 光生館
- 中検研究会, 2011, 『中検 4 級問題集 2011 年版』, 光生館

问卷调查

姓名:

性 别:

出生年:

出生地:

居住地:

1. 请（从语法上）判断下列句子。

如果对，请打✓。

如果不对，请打 × 并请写出认为不对的原因。

如果认为有些不妥但可以接受请打△。请指出哪里不妥以及如果是你，相同意思的句子你将如何表达。

① 大连给我留下最深的印象是花，大街上开着很多花，漂亮极了。
()

② 我上大学的时候，几乎所有的杂志都是在那家店买的，现在没有了，我有点儿感到可惜。
()